



愛の精神

# はんぶんこの福祉

社会福祉法人さがみ愛育会  
〒252-0206

相模原市中央区淵野辺 1-16-5 愛の園ふちのべこども園内 4F 法人本部  
TEL 042-707-8881 FAX 042-707-8882

ホームページ <http://www.aiikukai.or.jp> Eメール [info@aiikukai.or.jp](mailto:info@aiikukai.or.jp)



(編集発行人 小林祐子)



## “自由に、自分らしく、自然のままに”

しいのき保育園は、その子がその子らしくいられる場所であり続けたいという想いをもって、2019年の4月に開園しました。

あれから4年。園庭の木々は成長し、憩いの場となる木陰も増えました。そして、子どもたちは、しなやかな心と体で毎日保育園の園庭で夢中になって遊び込んでいます。

変化がめまぐるしい時代。これからの子どもたちは、新型コロナウイルスのような未知のウィルスやAI社会、深刻な環境問題など、さまざまな問題に答えを出していかなければなりません。大人から教えられた答えの中から選ぶのではなく、自分で考え答えを創り出し、未来を切り開いていく力が必要となっていきます。

自らの体を使い、頭を働かせ、心を動かす。多くの実体験を通して見える世界を広げていってほしい。だから自分でやることを大事に、子ども自身が自分で育っていくことができるよう、子どもたちの好奇心をくすぐり、探求心や挑戦意欲がわいてくるような子どもの「やりたい!」を引き出す環境づくりに力を注いでいきたいと思っています。

## 特集

## さがみ愛育会のこれから

新型コロナウイルス感染症拡大による蔓延防止法に基づき大人数での集会等の自粛のため、延び延びになつていた法人葬を令和4年9月3日に開催することができました。好天の下で無事、故松岡俊彦会長（以下 松岡）を笑顔で見送ることができました。「松岡俊彦を笑顔で送る会」に参列していただいた方々、会場を快くお貸ししていただいた和泉短期大学の関係者のみなさま本当にありがとうございました。また感染症予防の観点から参列招待者を絞らせていただきましたこと、改めてこの場でお詫びを申し上げます。また、どうしてもお花を手向けたいと、会場へお越しいただいた方もいらつしやう、松岡もたくさん親しくしていただいた方と最後にお別れができほつとしていくことと思いたいです。

さて松岡は目黒区立中目黒駅前保育園（現・中目黒駅前保育園）園長を辞した後、目指したものは法人

改革でした。会長職就任当時の1法人12施設の法人体制から数年間ので20施設まで拡大し、どこも施設も新規職員が大きく増えたこと、社会福祉法改正により施設ごとの管理体制であった各領域の福祉サービスが社会福祉法人という大きなくくりで保育、障害、介護の各サービスにおいても法人の理念「愛の精神」の下、以前と変わらずに福祉サービスを提供し、地域に貢献し、ひいては地域になくはならない施設となるべく試行錯誤を繰り返していました。

従来より、キッチンハウスやのびやかな障害者の製作品の地域販売会やハンドメイドショップ「バオバブ」での出品、ふちのべ美邦こども園の地域老人会とのかかわり、地域のお祭りでの協力や地域活動での取り組みなどを、感染症のリスクのある中でも行ってきました。さらに松岡はもっと専門的な取り組みをと、情熱を注いだのは「セーフティガード支

援隊」と「はんぶんこ寄付金制度」

の活動です。法人の各領域の施設長や幹部職員クラスが自身の業務以外に手弁当で地域にお住いの皆様がよりよい在宅生活を営める様に活動を行っています。「セーフティガード

支援隊」の理念は保育、障害、介護の領域に捉われずに社会福祉の価値観を持って地域で生き生きとお過ごしいただけるように援助することです。私たちの活動は現在までも、

これまでもなかなか予防接種ができない地域の方、障害者の方へのコロナワクチン接種を行ったり、家屋の外壁の営業に対し、判断できない高齢者が工事を発注した結果、多額の請求のために年金の口座を止められ、なおかつ社会福祉協議会の福祉

貸し付けの利用を断られ、生活が立ち行かなくなった方への無利子無期限貸し付けを行ったり（その後地域包括支援センターによって後見人の申し立てが行われ通常の生活に戻りました）、コロナウイルスで困窮する

一人親家庭への援助支援金などの活動を行ってきました。そしてそれを支え、活動の保障となるものが「はんぶんこ寄付金制度」です。今年五年目を迎えるこの寄付金制度によ

て多くの皆様の温かい志を頂戴しま

した。

翻って現在の状況を省みると、私がかつた介護領域では2000年に介護保険が始まりすでに20年以上の歳月が経過していますが、3年ご

の改正で利用する方が使いつらくなっていると感じます。もちろん介護保険によってよくなったこともたくさんありますが、特に介護保険の要支援、要介護1、2の皆様が

介護保険を使いながら地域で生き生きと生活できる制度ではなくなっています。要介護認定の基準も厳しくなり、負担も1割から2割から、3割と徐々に高くなり毎月払う介護保険料も高額になっています。担当した利用者の中にはお金が心配で利用

を諦めた方もおり、後期高齢者は増えましたが、サービスを安心して利用できなくなっています。全体として在宅サービスはサービスを抑制する方向に進んでいるのではと危惧

しております。もちろん財政的な問題も多く絡んでくるのかと思います。改善されたのか、介護保険の理念である、高齢者が在宅で、またはお住

まいの地域で最後まで生き生きと過ごしやすいなつたのでしょうか、施

設サービスもホテルコスト負担から料金が高額になっていきます。軽介護者であり在宅で暮らす方も、実際に利用者を見ていると、家事援助（ホームヘルパー）などのサービスは時間が厳しく細分化されてなかなか利用者の状況を把握できにくくなり、報酬も少ないために介護職員の確保が難しく不人気の仕事として世間ではとらえられています。そのために本来に提供したいサービスが行えない状況であり、デイサービスでも外出などの行事を制限せざるを得なくなっています。また、支援過程において、保育、障害、介護の領域を超えた多面的な問題も多く利用者だけの問題でなく介護者の病気、子どもの学費捻出のために、仕事をしなければならぬために十分な介護を行えない、または要援助者と不和になったりするケースもあります。そのためにも各属性ごとでの問題解決が非常に困難なケースも増えました。

そのために法人にとって属性を超えた活動である「セーフティガード支援隊」の活動は今後ますます重要性を増すものと思われます。今後も私たちは法律や金銭的問題なども含めたどんな課題でもソーシャルワ

ーカーや臨床心理士、看護師等の専門的な資格を持った隊員がチームを組んで、各領域の垣根を超えた難しい問題にもワンストップで解決に向けて働きかけを行っていきたく強い意志で活動します。ちなみに本年度「セーフティガード支援隊」は和泉短期大学と連携し保育者を志す学生の中で意欲があり、かつ生活に困窮する学生2名に対し、継続して毎年各50万円の返済不要の奨学金を支出する「さがみ愛育会スカラーシップ」事業を始めます。この奨学金を受けた学生が将来地域で保育や社会福祉のために活躍し、生きたお金になるように心から願っています。その他、地域にお住いの大学生への食材援助事業、本年度4月に値上がりした紙おむつなどの購入援助のために0歳児から幼児までの生活に困窮するお子さんを持つ家庭へ商品券を援助する「子育てコアラ事業」を行います。そのほか地域にお住いの子どもたちへの配食サービス事業などを検討しています。

この活動を支えるのが皆様からの志である「はんぶんこ寄付金」です。今まで多くの寄付金が寄せられていましたが、5年を経過し要件を満たしたので、私たちの法人は寄付金の

## 税額控除のしくみ

寄附者が、個人の寄附金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、次の算式により算出された額が所得税額から控除されます。

### 算出式

$$[\text{税額控除対象寄附金} - 2,000\text{円}] \times 40\% = \text{控除対象額}$$

この額が所得税額から控除されます

※詳細は、厚生労働省ホームページにて

受け入れ特定団体になりふるさと納税のように申告において皆様の寄付金が税額控除により還付を受ける団体になる申請を行います。具体的には私たちの法人が特定団体になり、みなさまの寄付金の40%を税額控除により還付を受けることができます。うになります。この制度を利用して皆様により寄付を行いやすくなること、そして法人の地域貢献をよりダイナミックに進めることができるようになります。社会福祉法人が取り巻く環境は大きく変わってきて

います。以前までは整備事業を受けてその補助金を受け取ることができ安定的な運営がなされてきました。しかし、社会福祉法人の独占でなくなった現在、民間企業とのイコールフットング（補助金がない民間企業と条件が同じでないと競争が成り立たない）の考えから建設費捻出などにおいても自主努力がなければ運営が立ちいかない時代になりました。そのためにも私たち社会福祉法人は地域から本当に必要なとされているのを常に自問しながら、何をなすべきかが問われています。

思えば法人創設当時の昭和23年、初代理事長の松岡キンは淵野辺においてアメリカに接収された陸軍基地周辺で危険なものがいっぱいあり、適当な遊び場もないなか1円、2円を求めて真っ黒になって釘拾いをする子どもたちの姿を見てこの子たちのために保育を始めようと決心したのでした。私たちは今後も地域に対して何ができるのかという、その精神を法人の重要な核に据えて活動していきます。



## 福祉セーフティガード支援隊

セーフティガード支援隊の今までの取り組みを見直し、今後の方針・事業を推し進める話し合いを行いました。新たに2名のメンバーを加えた議論は、これまでにない視点から自由闊達な意見で溢れ、とても有意義なものでした。ここで簡潔ですが、今後取り組む事業を紹介します。

### ①さがみ愛育会スカラシップ

奨学金支援事業……様々な家庭の事情により経済的に余裕がなく、進学にお金が必要な学生を対象に学費の支援を行います。学校法人 和泉短期大学と連携し、学校推薦の保育・福祉を学ぶ意欲的な学生2名に1人50万円の学費を支給する取り組みです。また、この奨学金は全額給付とし、返還する義務は発生しません。

### ②さがみ愛育会フードデリバリー

一人暮らしの学生への食材支援事業……ロシア・ウクライナ情勢の影響など、様々な要因で食品の原材料は年々高騰し続けています。親元を離れ、一人暮らしをしている学生を対象に、米・野菜（主に根菜類）・調味料・レトルト食品を現物支給する取り組みです。

### ③子育てコアラサポーター

子育て世帯の支援事業……近年の世界情勢の影響により、物価が上昇し続けています。そのため物価高騰の影響を受けている子育て世帯を対象に2万円の給付金を10名の方に支給する取り組みです。

### ④ハローエンジェル事業

出産祝い金支援事業……相模原市周辺地域で出産された世帯に対して、乳児の生活必需品を購入するための一部に充当していただくため、一家庭2万円のギフトカードをお配りし、子どものすこやかな成長・保護者の負担軽減に寄与する取り組みです。

以上の4つになります。また①の事業は具体的な実施に向けて現在進行中です。このような新たな取り組みは、決して奇をてらったものではなく、今まで愚直に積み重ねてきた活動の上に成り立っているものです。今後も福祉セーフティガード支援隊は、当法人の「愛の精神」を軸に、より一層活動内容を深め、行動し続けていきます。

セーフティガード支援隊 藤原俊貴

## 理事長日記

爽やかな秋の日、9月3日(土)に和泉短期大学クラークホールでの法人葬(松岡俊彦を笑顔で送る会)には、相模原市長 本村賢太郎氏、衆議院議員 赤間二郎氏をはじめ、多数の皆様のご来場を賜り催すことが出来ました。会場の斎壇には、富士山から広がる風景が花で彩られ、その中で笑顔の会長が皆様をお迎えました。法人理事、監事の方々の挨拶、来賓の方々のお言葉には、会長の功績や仕事に向かう姿、在りし日の親交が偲ばれる温かなメッセージを頂きました。式半ばの和泉短期大学理事長で橋本教会の須田 拓牧師、当法人理事の伊藤忠彦先生によるキリスト教式が厳かに行われ、法人のルーツを探求する途上で受洗し、キリスト教信者としての道を突き進んだ会長の生き方(本当の愛)の心に響く説教を頂きました。理事で和泉短期大学講師 武石宣子先生のパイプオルガンの心に沁みる賛美の音色がホールに響き、映像に映し出される活気溢れる会長の姿で儼が潤み、おもしろパフォーマンスに笑い、職員コーラスの美声(?)と会長への思いが溢れた温かな笑顔のお別れ会を催すことが出来ました。ご多忙の中、お出で頂きました皆様に心より感謝申し上げます。当日、所用でご欠席の全私保連の元代表でバオバブ保育園の遠山洋一先生に追悼文を頂きました。その文中に会長を(野の人)と称して頂きました。まさに子どもや職員と動き回る楽し気な笑顔、そして緻密で繊細な計画に基づいた豪快な保育内容、現状を豊かに未来への展望からの発信、関わる方々への溢れる心情、心地よい環境への行動力は正に(野の人)と称した親愛のお心が溢れる見事な表現です。常に五感を研ぎ澄まし、地に這い、弱者の思いを受け、毅然と提言し、実現に向けての強い信念、共に笑い合える関係を大切にされた会長です。その生き様を継承し、また皆様からの温かな思いを胸に刻むお別れ会となりました。そしてこの会を起点とし、愛の精神を胸に、はんぶんこの愛に新しい息吹を込め、当法人は新たな一步を踏み出す覚悟の日とさせて頂きます。

分園が2か所開設しました。江戸川区の(ゆずりは保育園分園みずえ)そして(こうのとり橋本保育園の分園)です。それぞれニーズに応じて開設です。地域の声を受け留め、施設、法人として課題を精査し運営していきます。

福祉施設の事件、事故が多発しています。利用者への暴行は密室での関わりの中で起きています。そして送迎バスの車内に残しての熱中症の死亡事故等、悲惨な事故が続いています。起きる度に、命を預かる事の重さに心が震えます。今は、殆どの施設には業務に於いてのマニュアル等は整備されているとは思われますが、現状を把握し、精査し、確実に理解し取り組む職員の意識が問われます。事件や事故の防止の為にカメラやセンサー等の整備も義務化されますが、やはり人の目、意識に勝るものはありません。命を預かる尊い職に携わらせて頂くという謙虚な気持ちを常に持ち、人と関わる業務に携わることを職員一同で誓い合って参ります。

理事長 小林祐子



# いつも元気！ みんな元気！！

しいのき保育園は、東京都の目黒区にありながら、木造の園舎や、四季が身体全体で感じられる、自然あふれる園庭があります。

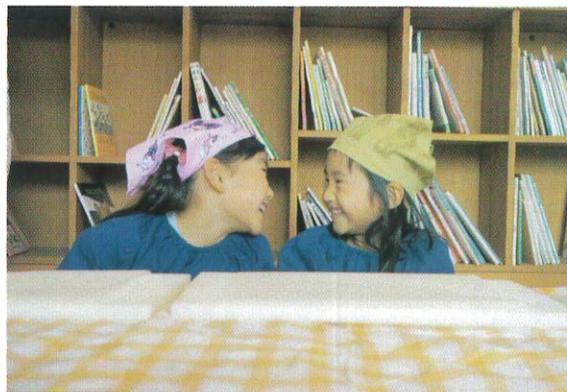
子どもたちは季節問わず、日々砂場や築山で泥んこになったり、池やウォータースライダーで水遊びをしたり、虫を見つけては、追いかけて回しています。

しいのき保育園に来るまでに何園か都心の保育園に勤めましたが、本格的な大型遊具がある園は初めてでした。開園当初は、大きな怪我が起きるのではないかと毎日子どもが危なく見えて、一人でハラハラドキドキしてい

たものです。

今では、多くの子どもと大人に支えられ、いつの間にか、虫や植物の知識が増えました。私もみんなと一緒に日々学んでいきたいと思っています。

しいのき保育園看護師 西田勸望



## 賛助会員寄附金及び一般寄附金受領報告

令和3年10月1日～令和4年9月30日

(順不同・敬称略)

### 一般寄附金

櫻井慶一	船田松代	田中多輝子	小嶋 惇	沓掛伸二	米崎かず子	山崎義弘
清水康之	佐藤守男	手塚友子	新倉 勝	土方堅次	夏川李一	中村裕也
伊藤忠彦	井俣松子	日村一誠	池田 信	霜降靖代	西本恵子	竹内一世
池田元司	山本 歩	松岡世津子	小林祐子	松岡 裕	石川 貞	清水兼広
藤井光治	長谷川友紀子	長谷川浩二	伊藤寿子	小俣キヨ子	増田まゆみ	細田のぞみ
武石宣子	若林文字	伊東和夫	薄井敏郎			

(有)JAL企画 大和証券町田支店 匿名希望 17件

一般寄附金合計 58件 1,284,000円 ①

### 賛助会員寄附金

伊東和夫	伊志嶺美津子	依田奈扇	西本恵子	森 政子	江戸広美	繁多 進
岸 義吉	新津千代子	神田みゆき	清水兼広	豊田俊則	中谷浩幸	松岡俊彦
松岡世津子	手塚友子	井狩芳子	藍田洋一	堂 和子	西脇清子	吉田幸子
向 啓司	宮崎住子	岸川和繁	西垣義弘	上山富子	霜降靖代	佃 清
佃 ゆり子	松岡 潤	松岡 綾	岡本修一	川崎以付史	石黒節子	岡本小百合
池田由佳理	立正保育園	(株)幼保経営サービス	(有)東郊住宅社	匿名希望	3件	

賛助会員寄附金合計 42件 344,000円 ②

① + ② 1,628,000円

この期間内に皆様から頂いた寄附金合計は以上の額になりました。ご寄附をして下さった多くの皆様方、ありがとうございました。

# 障がい者支援施設よりオリジナル製品を一部ご紹介!

## 《生活介護支援事業所 キッチンハウス下九沢店》

お問い合わせ先: ☎042-713-3951



フェルトリース (クリスマス)  
750円



干支ストラップ  
350円



干支しおり  
100円

フェルトのリース…今回はクリスマスカラーのイメージで緑と赤といった二色で作っています。ボールの作成やデザインは利用者の方をお願いしており、リースの装飾物は職員が作っています。手作りの為全く同じものはありません。手にする機会がありましたら、その出会いを楽しんでもらいたいと思います。

干支ストラップ…かわいい十二支のストラップです。リース同様に手作りならではのキャラクターの表情を手にとってみてください。

干支しおり…牛乳パックを再生し紙漉きして作った製品です。日々日中の作業にて利用者の方々が紙ちぎりやミキサーで細かく砕いたり、ゴミを取り除きながら作っています。

## 《生活介護支援事業所 のびやか》

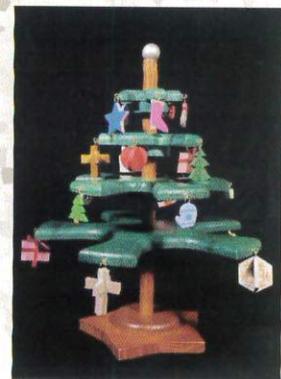
お問い合わせ先: ☎042-757-2130



ワンアップデコレーション  
各200円



クリスマスツリー  
2800円



ワンアップデコレーション…プレゼントの口を結んだり、クリスマスツリーに飾ったり、かばんやドアノブなど色々な所に付けると、かわいい絵が楽しいクリスマス気分にしてくれます。

クリスマスツリー…もみの木(緑)と雪の結晶(白)のオリジナルツリーです。飾りの種類もたくさんあるので、自分好みのツリーにして楽しんで下さい。使わない時はコンパクトに収納することができます。

各店舗にて、それぞれの独自の製品と共いのびやか製品も店舗にてお取り扱いしています。



## ゆずりは分園が スタートしました

令和4年4月に0～2歳児23人をお預かりする小規模スタイルで分園みずえは開園しました。江戸川区瑞江に位置し、目の前には春江の森公園という素敵な公園があります。保育方針は本園と同様、子ども一人一人の主体性を大切にするモンテッソーリ教育を行っています。子どもたちがしめじをほぐし給食でいただく食材の「下処理」をしたり、お花を小さな花瓶にかざったり、様々な活動を通して「一人でできたよ」という気持ちと誰かの役に立つ喜びが育つことを大切にしています。



### 施設長です こんにちは ②①



「中目黒駅前保育園」園長の山本清吾です。相模原の園から異動になってあっという間に3年の月日が経ちました…。思い起こせば、初めて中目黒駅を降りた時のドキドキ感は今でも忘れることができません。

見上げれば超高層ビル、まるで模型のような立体道路、そして多くの人波…自分はこんな都会で園長としてやっていけるのだろうか…?という不安な気持ちでいたことを覚えています。その緊張した気持ちを和らげてくれたのが目黒川の満開の桜でした。朝の気持ちの良い空気を吸いながら桜の並木を歩くと気持ちがスッとして、それ以降目黒川沿いを歩くことが日課となりました。

中目黒駅前保育園は駅の目の前にあることから、卒園した子ども達がよく遊びに来ます。玄関に入ると「わあ～懐かしい…」とほっとした表情で当時の保育者と昔話に花が咲きます。その姿を見るたびに、きっと中目黒駅前保育園がみんなの

心のふるさとになっているのだと感じています。その思いを大切にこれからも卒園児がいつでも安心して立ち寄れるような雰囲気を持続していくことが私の使命だと考えております。

当園は2010年に開園し今年で13年目を迎えます。大都会で保育を進めるにあたり難しいこともありますが、初代園長の松岡俊彦さんから大切にしてきた「ふるさと保育」を原点に職員と共に「温かい保育」を実践しています。そして利用する皆さんの優しさや温かさ、職員の明るさに励ましてもらいながら日々、園長業務に励んでおります。



# ～ 掲 示 板 ～

【法人本部の予定】

### 理事会

日 時 令和5年1月28日(土) 13:30～  
議 題 令和4年度補正予算について他

### 施設長会①

日 時 令和4年11月21日(月) 18:00～

### 施設長会②

日 時 令和5年1月16日(月) 18:00～

## 福 祉 キ ー ワ ー ド

### 求められる時代からの選ばれる時代へ

社会情勢により保育所関係の環境が、ここ十数年で大きな変化を迎えています。

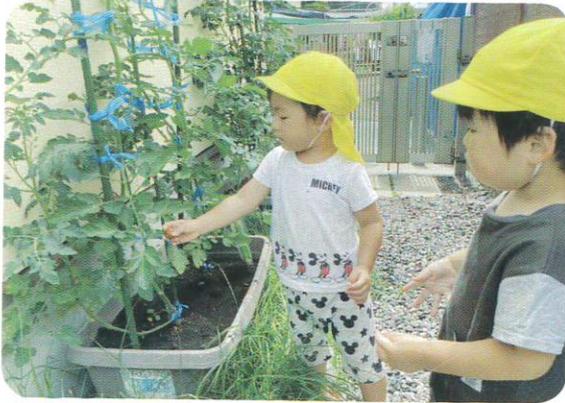
めざせ待機児童解消ゼロ作戦の時は、多くの保育所が増えて社会から地域から求められる時代でした。そして次には少子化対策として連携型の保育所が生まれ、今は求められる事から選ばれる時代が変わってきたように感じます。実際誰に、何を求められているのかというと…社会に地域の方々々に、安心・安全そして居心地の良い場所が求められているように思います。

当園ではホームページやポスター等で情報を発信し、園庭や室内の一部を開放して親子で楽しく心地良く過ごし、子育ての話が気軽にできる『子育てを応援します』をテーマに教育・保育並びに子育て支援を行っています。ここ近年はコロナ禍の影響の為、イベント等が中止や縮小しつつも感染予防を十分に行いながら新たな形で開催してきました。その中で感じたことは対面しながらでの参加を本当に喜んでいただけたこと、また初めて会う保護者同士が楽しそうにコミュニケーションを取っている姿がとても印象的でした。その方たちは今年度入園されました。

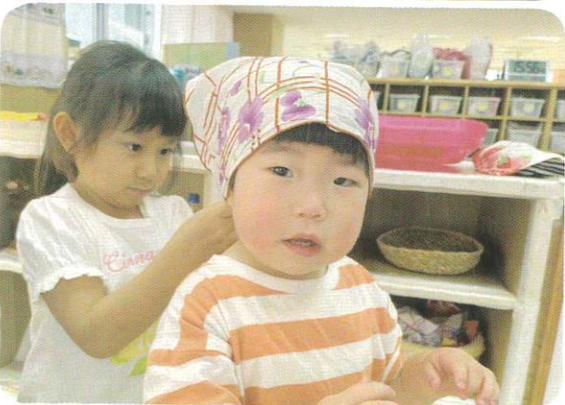
これからも選ぶ側と選ばれる側のバランスを大切にしながら、子どもの『最善の利益』を一番に考えて進んで参ります。

認定こども園きらきら園長 長谷川友紀子

## ホッとひといき



(認定こども園きらきら)



(ふちのばきりこども園)



## 編集後記

ここ何年か仕事で写真撮る機会が増え、増えてきました。



つつかまえたよ

ところが最近の私は納得いくものが撮れず、どうしたらいいんだろうと考え込んでしまっています。しかし、撮ることは嫌いではないのです。なぜなら、小さい頃からカメラマンの祖父の姿を近くで見えてきたからです。祖父の家には写真を現像する暗室があり、写真が浮かびあがる瞬間を子どもながらにドキドキしながらみていました。祖父の写真は、その時の記憶が蘇るような、今にもフレームから飛び出してくるようなものばかりでした。私も、祖父のように見た人がその時の思い出や情景が浮かんでくるような写真を撮りたいという気持ちで、シャッターを押し続けていますが…まだまだ修行が足りないのでしょうか。

編集担当 笹谷有希